



東北学院大学 チャペル ニュース

ク リ ス マ ス
特 集 号

第91号 2004年12月
東北学院大学宗教部
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
〒980-8511 (022) 264-6428

巻 頭 言

優れた方の誕生

宗教部長
佐々木 哲 夫



十二月は、イエス・キリストの誕生をお祝いするクリスマスシーズです。聖書の福音書は、イエス・キリストの生涯を誕生物語から書き始めています。それは、預言者イザヤによって予告され、天使ガブリエルによって告知された誕生です。支配者ローマ帝国による人口調査の求めに応じたマリアとヨセフは、ベツレヘムへ旅立ちます。同じように調査に応じて帰郷した人々でござった返すベツレヘムの宿屋には空きがなく、身重のマ

リアは、家畜を留め置く場所に落ち着くしかありませんでした。多くの絵や映画の図像となったイエス・キリストの誕生の場面です。遠くの占星術の学者たちや近くの羊飼いたちが、誕生の場面に立ち会いました。それは、人々を照らし出す命の光の到来した瞬間でした。しかし、私たちが知っているこのようなイエス・キリストの誕生の場面を記していない福音書があります。マルコ福音書です。マルコ福音書は、最初に、イザヤが預言した荒野で叫ぶ者―ラクダの毛衣を着、腰に革の帯を締め、イナゴとの蜜を食する者―の叫び声を登場させています。バプテスマのヨハネです。彼は、悔い改めの洗礼を宣べ伝えて叫びます。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなただちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる」(マルコ福音書一章七、八節)。マルコ福音書は、聖

霊で洗礼をお授けになる方とイエス・キリストを紹介しています。「聖霊で洗礼」とは、どのような意味なのか考えてみたいと思います。

◆
マルコ福音書の当該箇所だから「聖霊で洗礼」の意味を明らかにすることは困難です。イエス・キリストの使徒パウロの手紙にまで文脈を広げて意味を探ってみたいと思います。すると、二つの意味が浮かび上がってきます。その第一は、新しい命に生きるということなのです。

わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

(ローマの信徒への手紙 六章四節)

第二の意味は、私たちに一

致、即ち、真に親しい関係を与えるということです。

◆
・・・わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと・・・皆一つの体となるために洗礼を受け・・・
(コリント信徒への手紙 第一・一二章一三節)

◆
聖霊による洗礼は、人に、新しい命と新しい人間関係を与える出来事でした。まさに、イエス・キリストの誕生は、新しい人間関係の始まりを告げる出来事だったので。興味深いことに、その後、イエス・キリストは、しるしとして、バプテスマのヨハネから水の洗礼を受けておられます。同様に、今年のクリスマスの日曜日には、多くの人が諸教会において洗礼を受けることでしょう。クリスマスを迎えるにあたり、イエス・キリストの誕生がまた東北学院大学の私たちにとっての出来事だったことに心に留めたいと思います。

Christmas Message

クリスマスおめでとう



理事長 赤澤 昭 三

毎年、内外からいただいているクリスマス・カードには「クリスマスならびに新年おめでとうございます」と併記されているものが少なくありません。日本流にいえば、年末年始のご挨拶をまとめて、という便宜的な意味があるのかもしれませんが。あるいはクリスマスと元旦のいずれもが人生の暦の上で大きな節目であるとの気持ちを込めたご挨拶とも解せられるでしょう。いずれにしても、そこからは旧年を無事に過し新しい年を迎えることのできる感謝、喜び、そして希望に満ちた差出人のメッセージを感じ取ることができて嬉しく思います。とはいっても、クリスマスと新年の挨拶を一緒にすることの是非はただ暦上の関係だけから考えればよいかという疑問も心のどこかに残ります。

といいますのは、私たちはクリスマスにも元日にも同じく「おめでとう」という挨拶を交わしてはいますが、それぞれの祝意の本来の意味にはかなりの違いがあるのでは

ないかということですが。例えて申しますと、元旦の「おめでとう」はすべての人が新年の同じ日に各自の誕生日を祝い合うようなものです。一方

クリスマスは二〇〇〇年以上も前に遠い異国に生まれた特定の人をお祝いするためのものです。家族、親族などの血縁関係、同郷とか同国籍とかの地縁関係、あるいは職場・友人・知人などとの個人的なお付き合いとは全く関係がない一人の方の過去の生誕を記念して世界中の人々が共にお祝いするのがクリスマスだからです。

よくご承知のように、この方とはイエス・キリストのことです。もっともキリストの誕生日は二月二五日であるとされてきましたが、それは聖書のどこにも明記されていません。キリストの降誕について最も詳しい記述のある「ルカによる福音書」をいくら読んでも出てきません。実はその日が現在のようにならぬはずと後の西暦四世紀になってからとのこと

です。その有力な根拠とされたのがフィロカリス暦 (Philoctarian Calendar) といわれているものです。ご承知のようにキリスト教国アメリカではこの日が法定休日とされていますが、同じキリスト教圏でもギリシャ正教では一月六日がクリスマスとして祝われてきております。いずれにしても出生届や戸籍簿などの確かな記録がない当時のことですから推測の域を出ないのはやむをえないことと思えます。

しかしそれだからといってクリスマスを祝う意味がないということにはならないでしょう。今までイエス・キリストというような人物はこの世界のいかなる時期にも歴史上絶対に実在しなかったと確実な証拠を示して証明した人がいたとは聞いていません。それどころか聖書に記録されていることを真実と受けとめているキリスト者は、この世で人の子として生涯を過ごされたキリストが神から送られた方であり、この神の子こそは時代と所を超えてすべての人にとっての救い主であると信じているのです。ですから教会ではキリストの誕生日は特に降誕日とか降臨節とか呼ばれているわけです。

ただ、現実のこととしてクリスマスはやはり誰にとっても喜ばしく楽しい日であるにちがひありません。英語のクリスマス・カードにも普通「MERRY CHRISTMAS」と書かれているくらいですから。それにしても

もクリスマスはなぜ楽しいことなのでしょう。街角でクリスマス・キャロルが奏でられ、クリスマス・ツリーが飾られ、デコレーション・ケーキをいただくことができるからでしょうか。いや、それら自体はクリスマスを迎える人びとの喜びや楽しい気分を表わす手立てにすぎないのです。とすれば、この際、クリスマスがなぜ世界の人びとから待ち遠しく感じられ、楽しい日として迎えられるのか、もっとじっくりと考えてみてはいかがでしょうか。

手元の国語辞典によりますと「おめでとう」という挨拶は慶事を祝福する言葉であると説明されています。そこで、クリスマスは私たちに与ってなせ慶事なのかということになります。しかし結局のところ、このことを正しく理解するためにはどうしても聖書に帰るほかないというのが私の答です。聖書を通してイエス・キリストのご降誕が私どもにとってもどのような意義を有するものであるかを改めて敬虔に学ぶほかないということですが。

聖書にはイエス・キリストという方が私たち一人一人の救い主としてこの世にお生まれになったと記されています。それによれば、私たちは生まれながらの罪性(原罪)から解放されないかぎり救われない存在(真のいのちへの希望を喪失した存在)であり、この罪の支配から私たちを贖われるのは創造主である神が

自身のご恩寵によるほかないということです。そのため慈愛の神自らが被造物である人類のために人の子として私たちの世界に入られたという出来事こそがキリスト降誕であると聖書は記しておられます。ですから、もし私たちが心を開いて人間としての自己の本性を認め、神に対して罪深い存在であるとの自覚から神の救いを望むのであれば、クリスマスこそが神による最高の祝福を示すものであり、私たちに与って本当の意味で慶事になるといって過言ではありません。

このように、共に喜び祝い合うクリスマスには極めて深い意味があることを聖書を通して、あるいは教会や学校のクリスマス礼拝への参加によって学び取っていただきたいのです。入学式の折、大学長から記念に贈られた聖書は今も皆さんの手もとにあると思いますが、この機会にぜひその聖書を繙き、キリスト降誕がすべての人にとって素晴らしい「慶事」であることの意義を改めて確認してほしいのです。しかもこのことが自分の生き方に直接に深く関わる出来事でもあると考えるつ静かに祈るひと時を持つていただければと願ってやみません。

少年たちの聖歌



宗教部副部長

雨 貝 行 磨

二〇〇二年のアドヴェントの季節、ドイツのライプツィヒという町を訪れました。この街の中心には、聖ニコライ教会があります。もう一〇年をやや越える前の出来事になってしまいました。この教会堂では、保安警察によって囲まれ、その会堂内では、平和の祈りが捧げられたのです。この祈り会から、旧東ドイツの支配体制を変革する活動が生まれ、育っていったのです。今ではこの祈り会は少数の集

いになりましたが今でも続けられ、イラクへの軍事介入をやめようとする祈り重ねています。この街の人々には、さし迫った求めはもう実現されたのでしょうか。教会堂前には「すべての人々に開かれた教会」という小さな掲示が立てられています。

教会堂の前を通り過ぎますと、旧市街の商店街になります。夕陽の中へ、商店街に灯されたあかりが映えて、かつての暗く、沈んだ雰囲気は、どこにもありません。明るく、賑やかで、行き交う人々は楽しそうな表情です。家庭での、クリスマスの装いのためでしょう、所狭しと色彩豊かなオーナメントが光をあびています。新装なったデパートがあります。出入口は、買い物を手にさげた人、何も手にしていない人、賑いはいちだんとひろがっています。その向いに、CDショップが店を開いています。入ってみますと、壁いっぱい、ジャンル別に整然と並

べられたCD、その棚を探す青年、そのわきで試聴する青年、決済のクレジット・カードOKです。

ひととき大きな音響でデパートの前が賑々しくなりました。クリスマス・ソングを演奏する一団が、あたかも自分たちの演奏会場であるかのように、楽しい表情で、歌と演奏をはじめました。反対の出入口へまわりますと、そこには、女性たちの弦楽合奏が、冷たい空気を静かにふるわせています。「東欧革命」一〇年を経て、ヨーロッパの伝統を回復しているように思われます。

もう一つ、この街には聖トーマス教会があります。J. S. バッハが活躍したところとして知られています。かつては、グレーでくすんだ外装をしていましたが、今では内装もリニューアルされ、清潔な白い建物となっています。小さな鐘の音が響きました。日曜の礼拝に際しては、トーマス教会聖歌隊がモテットなどを演

奏しますので、今では会堂内の通路にまで人々が立っているほどです。しかし、人々の多くは、聖歌をうたいません。この四〇年間のキリスト教の空白は、うめあわせることができないことを示しています。ヨーロッパの伝統は、このようにして断絶している、そういった内側をかいまみせています。

市庁舎前の広場には、甘いワインの香り、ソーセージの焼くにおいがただよっています。その賑わいを背にして、小さな通りをぬけようとしますと、新装のガラス張りの建物が眼に入りました。『ライプツィヒ現代史フォーラム』と掲げられています。出入口に眼をやりますと、係の人と眼が合い、どうぞというしぐさです。そこは一〇年前までの東ドイツ体制を展示し、その歴史を語り継ごうという博物館でした。かつて市民を監視し、盗聴し、記録し、逮捕・訊問した権力の実態を明らかにしています。心ふさがれる

思いで階段を下り、外へ出ました。心が沈んでしまいました。そこへ、澄んだボーイ・ソプラノの歌声が伝ってきました。建物の間の通路、パサージュといったところからの歌声でした。そこには三人の少年たちが立っています。二人は兄弟のようで、弟が兄に次は何を歌うの？と尋ねています。質素な装いです。街の喧騒をよそにして、三人だけで、クリスマスの聖歌をうたっています。時代の風潮には動じない、何か毅然としたたたずまいを感じさせる少年たちです。私は、その姿と、そして歌声にそこをしばらく離れることができませんでした。

「東欧改革」の結果、これもヨーロッパの伝統への回帰が進みます。その喧騒を背に、聖歌を歌う三人の少年たちの姿は、今も脳裏から離れることがありません。

地に平和ークリスマス黙想



キリスト教科長

佐藤 司 郎

キリスト誕生のおよそ七〇年前、預言者イザヤは、イスラエルの罪を告発し迫り来るアッシリアの脅威と神の裁きとを告げる厳しい託宣の中に、静かな確信と希望に満ちた言葉をしのび込ませた。

ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱えられる。

(イザヤ九章五節)

「平和の君」ー不安定な歩みをつづける世界の中であって、今年のクリスマス、私たちは、自らを省みながら、平和の君の誕生に思いを向けるべきではなからうか。

*

イエス・キリストがお生まれになる六ヶ月前、後に「洗礼者ヨハネ」と呼ばれイエスの宣教の道備えとなった特異な人物が生まれた。彼の父ザカリヤは聖霊に満たされ、こう預言した。

この神の憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。

(ルカ一章七八節)



シャガール「平和」

(国連ビル、ステンドグラスの一部)

えない。世界が戦争と暴力、争いと殺人に満ちているだけでない。われわれの内なる人も利己的な心に支配されている。そのことを誰が否定しえようか。しかしいま、飼いや葉桶の中の幼子イエスによって、「高い所から」夜明けの光が射し込んだ。この光は私たちに平和の道へ導く。

*

今も私たちは、暗闇と死の陰に座していると言わざるを

き、主の栄光が周りを明るく照らし出した。

クリスマス物語の中でもっとも有名な場面。野宿しながら羊の群れの番をしていた羊飼いたちが天使が近づ

すると、突然、この天使に天の大群が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

(ルカ二章一三節)

イエス・キリストの誕生とは何か。それは神が人となつた秘義的出来事。神が私たちに人間を愛し、連帯し、受け入れ、ついには一つとなったのである。聖書によれば、この「受肉」は神と人の和解の出来事にほかならない。そこから人と人、人と自然、民と民の和解が生まれる。「地に平和」は、イエス・キリストによって到来した。このキリストを私たちが私たちの主とする時に、その場所から、平和はなるのである。今年のクリスマス、キリストの平和を共に祈りもとめたい。

イエス・キリスト の系図と処女受胎

工学部
志賀野 洋



「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図(「マタイ一章一節」)はヨセフがダビデの孫であることの系図にはなっていないが、イエス・キリストの系図としては疑問があります。人はもしマリアの処女受胎を承認するとすれば、イエスが「ダビデの子」であるということは、全く否認されなくてはならないと考えます。人はイエスが「処女マリアの子」であることと、「ダビデの子」(ダビデの家のヨセフの子)であるということとを、厳密な意味で同時に肯定することは不可能と考えます。従って後者を肯定する者は、前者を全くの嘘として

斥けるか、そうでなければ単に宗教的敬虔もしくは道徳的純潔の譬喩として「精神的」に許容するに過ぎませんでした。逆にまた前者を強調する者は、後者を全然否定しないまでもせいぜいただの譬喩として、即ち神の子・メシアに対するユダヤ的な称呼として単に霊的に、若しくは名義上マリヤの夫であったヨセフの養子として単に法律的に、これを肯定するに止めざるを得ませんでした。しかし、いったい福音記者のマタイやルカが、誰の眼にも余りに明らかなこの矛盾に全然気付かなかったというようなことがあり得るでしょうか。また彼らが「人の子」イエスの肉体の由来についてかくも重大な二つのことを言い表わしながら、そのうちのただ一方だけを厳密に文字通りの意味に取り、他方を単に譬喩な意味に於いて主張したというようなことがそもそもあり得るでしょうか。彼らは決して初めからこの矛盾に気付かない程に気狂いじみて迂闊だったのではありません。といつてまた霊的にせよ、道徳的にせよ、法律的にせよ、一方を単に譬喩的に解することによってこの矛盾を折衷しようとする

程に抜け目なく器用であったのもありません。彼らが、イエスの肉体の由来を誤りなく伝えようとする時、彼らはこの矛盾の矛盾であることをはっきりと知りながら、しかも全く当然なこととしてその双方を厳密に文字通り主張せざるを得なかったのです。何故なら、もしイエスの肉体が律法を超えて処女マリアから生まれたのでなかったら、イエスの肉体の誕生は律法を楯としいや増したダビデの家の罪に対する徹底的な粛清(「マタイ二二章八節」「人の子は安息日の主なのである」)を結果し得たでしょうか。また、もしそれが律法に従い、ダビデの家の義しきヨセフと処女マリアとの結婚で生まれたのでなかったら—言い換えると、そこに少しでも律法にはずれた異常なものが含まれているとしたら、たといそれが最も純潔な処女マリアから生まれたのだとしても、イエスの肉体の誕生は、どうしてイスラエルの律法を法的に確立して(「マタイ五章一七節」「わたしが生きたのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、成就するためである」)ダビデの家の終わる

ことなき繁栄を結果すること(ルカ一章三三節「彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない」)が出来たでしょうか。「見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。(「マタイ一章三節」)

真の人イエスが罪を赦す能力のある真の神の子であり(「マタイ九章六節a」「人の子は地上で罪を赦す権威をもっていることを知らせよう」)、その御方が私たちと常に共に有るといふインマヌエルの真理は端的に律法を超えると同時に、真実に律法を生かす事実であります。それはただダビデの家のヨセフと許婚なる処女マリアから聖霊によって誕生するイエスの肉体を介してのみ、ユダヤ人にも、ギリシャ人にも、始めて紛れなく啓示されることが出来ました。そしてマリアは実に、この啓示を受けかつ信じた最初の人であります。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。自分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。」(ルカ一章四七〜四八節) マリアは、エリザベトの祝福に答えて、そう歌いました。キリスト教の信仰の基盤は、わたしのような者を神が目をとめてくださったこと、神が心にかけてくださったことを知る以前からわたしのような者を神は心にかけてくださったことに気づくことです。「主の天使が夢に現れて言った。『ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。』」(「マタイ一章二〇節b」)、そしてヨセフもこの啓示を受けかつ信じ、マリアを受け入れました。

十一月に入ると街角のあちこちでクリスマス飾りが店頭の花を添え、華々しくツリーの点灯式が行われるのも珍しくありません。大学でも十二月中旬に大学クリスマス礼拝をして冬休みになる都合上、十一月下旬にはクリスマスイルミネーションが飾り付けられます。しかしクリスマスはいつから



長 義之 副 部長 永井

泉キャンパス

ます。松飾りをして迎えたお正月が一月七日の「松の内」をもって終わるのになとえ

あるといえ

ば、一月六日までは「もみの内」(もみの木をツリーとして飾るので)といえます。七週間に及ぶこのクリスマスシーズン皆さんはどのように過ごされるのでしょうか。是非この時期、教会を訪ねてみることをお勧めします。

今年もクリスマスを祝う時期となりました。町にはクリスマススの雰囲気漂う時です。皆さんの周りでも様々にクリスマスが立てられているかもしれない。どんな祝い方をしても、本来クリスマスは礼拝をする時なのです。そもそも「クリスマス」という言葉は



長 信 副 部長 野村

多賀城キャンパス

「キリスト」と「ミサ(礼拝)」が合成されて「クリスマス」という言葉になったものですから、キリストを礼拝することがクリスマスであるという事です。東北学院では、この精神を継承して、クリスマススの礼拝を行います。多賀城キャンパス

うことです。

各キャンパスのメッセージ

のクリスマス礼拝は、十二月十六日です。各教会でも十二月十九日の日曜日にクリスマス礼拝を行うと思います。ここで真のクリスマス心を心より祝いましょう。

教会の暦では、十二月から待降節になります。この季節は、主の降誕を祝うクリスマス待降節、準備の季節です。十二月は年末に向かう、忙しい季節ですが、クリスマスが次第に近づいてくる喜ばしい季節でもあります。

土樋キャンパス



長 尚彰 副 部長 原口

抵抗するチェチェン共和国の武装勢力が、小中学校の教職員と生徒達を人質に取る事件を起こし、多数の犠牲を出しました。二一世紀において、世界中の人々が危険と不安に怯えるようになるとは誰が予想したでしょうか。

二〇〇四年は平和な年ではありませんでした。中東ではパレスチナとイスラエルとの間で、自爆テロ事件と報復攻撃が繰り返されました。アメリカとイギリスが中心になって起こしたイラク戦争終結後のイラクも、パレスチナ以上の混乱状態でテロ攻撃と報復攻撃、誘拐や殺戮事件が後を絶ちません。ロシアの北オセチアでは、ロシアの力による支配に

しかし、このよな世界の闇の中に、かつてキリストはお生まれになったのでした。長い間、異民族の支配に服し、重税に喘いでいたユダヤの人々は、救い主の到来を待ち望んでいました。キリストは「平和の君」としてこの世に到来したので。人々の間に憎しみと争いが広がる時であるからこそ、キリストの愛と平和を待ち望みたいと思います。

1 בְּרֵאשִׁית בָּרָא אֱלֹהִים אֶת הַשָּׁמַיִם וְאֶת הָאָרֶץ
 הַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 2 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 3 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 4 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 5 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 6 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 7 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 8 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 9 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 10 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 11 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת
 12 וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת וְהַיָּם וְהַיַּבֵּשֶׁת

キリスト教 Q & A

1 Ἐν ἀρχῇ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος ἦ καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος. 2 οὗτος ἦν ἐν ἀρχῇ πάντα δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ χωρὶς αὐτοῦ ὁ γέγονεν. 3 ἐν αὐτῷ ζωὴ ἦν, φῶς τῶν ἀνθρώπων. 4 καὶ τὸ φῶς ἐν καὶ ἡ σκοτία αὐτὸ οὐ κατέλαβεν. 5 Ἐγένετο ἄνθρωπος ἀπεσταλμένος αὐτοῦ Ἰωάννης. 6 οὗτος ἦλθεν εἰς μαρτυρίαν περὶ τοῦ φωτός, ἵνα πάντες πιστεύσωσιν ἐν αὐτῷ. 7 οὗτος ἦν ἐκείνος τὸ φῶς, ἀλλ' ἵνα μὴ φάτωσιν ὅτι ὁ κόσμος δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ οὐκ ἔγνω. 8 οὐκ ἦν ἐκεῖνος τὸ φῶς, ἀλλ' ἵνα μὴ φάτωσιν ὅτι ὁ κόσμος δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ οὐκ ἔγνω. 9 Ἦν τὸ φῶς τὸ ἀληθινόν, ὃ ἐρχόμενον εἰς τὸν κόσμον. 10 καὶ ὁ κόσμος οὐκ ἔγνω αὐτόν. 11 εἰς τὰ ἴδια ἦλθεν, καὶ οὐκ ἔγνω.

Q、サンタクロースって何？

サンタクロースに関して、聖書は、何も記していません。それは、四世紀の小アジアの町のシユラの司教であったニコラウスが、ある時、貧しい三人の娘さんたちに嫁め入りの時の持参金としてそれぞれに金貨入りの財布を夜中に部屋に投げ入れたとの伝説に基づいたものです。「サンタクロース」の名称は、聖ニコラウスの愛称であり、オランダ語のシント・クラウス (Sint Klaus) がなまったものと言われています。

聖ニコラウスの祝日は十二月六日で、特に、ドイツ、スイス、オランダでは、その前夜が子供たちの楽しみとする贈り物の日でした。後にニューヨークに移住したオランダ系プロテスタント住民がアメリ

カに伝え、クリスマス・プレゼントという既存の習慣と習合したと考えられています。トナカイに乗って来て、煙突から入り、靴下にプレゼントを入れていく赤服で白髭の好々爺は、世俗化されたサンタクロースの姿です。

確かに、聖書には、サンタクロースは登場してきません。しかし、サンタクロースの贈り物以上のプレゼントとも言うべき出来事が記されています。即ち、救い主イエスの誕生です。クリスマス(御子の誕生)は、神がわれわれに与えてくれた最高の贈り物です。

(佐々木哲夫)

Q、十二月二五日とは？

西方教会(ローマ・カトリック、プロテスタント)の伝統では、三世紀の末頃からキリストの降誕日として守られてきました。東方教会(ギリシャ正教会系)では四世紀頃から一月六日公現日に降誕を祝ってききましたが西方教会との調整を経て十二月二五日には「降誕」を、そして一月六日には「異邦人への救い主到来」を祝うようになりました。

なぜ十二月二五日なのかについては、古代教会で考えられていた独特の日にち算定があるようです。また、冬至に近いことから異教の「太陽の誕生祭」に対抗する意味で「義の太陽=キリスト」の出現を祝ったものであるといわれますが確かなことはわかりません。

そのような中でひとつ確実なことは四世紀から五世紀にかけて「キリストの受肉と人格」に関する論争があり、キリスト養子論という異端説を

退けるためにキリストは神の御子としてしかも人間の姿で誕生されたことが東西両教会で強調されたという事実です。

クリスマスは十二月二五日に祝うということは、神の御子が救い主として人間の形を取り(受肉)、人間の抱えるさまざまな問題を担ってくださるために私たち人間の近くにおいてになったことを意味します。

(永井 義之)

クリスマス・ツリーは、すっかり日本中に定着し、みなそれぞれ美しく飾ってこの時期を楽しんでいます。しかし最初のクリスマス・ツリーはもっと様子が違っていたようです。

その起源は、森の国ドイツ

Q、クリスマスツリーって？

2004年度 宗教部の活動

通 年

- 大学礼拝
 礼拝(朝) 土樋・泉・多賀城キャンパス 月～土曜日
 礼拝(夜) 土樋キャンパス 毎週水曜日
 教職員礼拝 泉キャンパス 前期 2 回
- 寄宿舎礼拝
 泉男子寄宿舎 毎週月曜日
 泉女子寄宿舎・旭ヶ岡寄宿舎 毎週火曜日
- 聖書研究会
 土樋・泉・多賀城キャンパス
- 宗教部会 毎月
- 4月 チャペルニュース88号(新入生歓迎号)発行
 キリスト教活動のハンドブック発行
 第9回スプリングカレッジ(17日)
- 5月 春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝
 泉(12日)・土樋キャンパス [朝](13日) 説教者 藤掛 順一牧師
 多賀城(12日)・土樋キャンパス [夜](12日) 説教者 岸 憲秀牧師
- 6月 チャペルニュース89号(春季特別伝道礼拝特集号)発行
 キリスト者推薦学生との懇談会(8日)
 礼拝奉仕者懇談会
 土樋(16日)・多賀城(24日)・泉キャンパス(7月2日)
- 7月 宗教部研修会(2日)
 第28回青山学院合同チャプレン会議(16～17日)
 第30回サマーカレッジ(27日～29日)
- 9月 第50回教職員修養会(1日～2日) 講師 速水 優先生
- 10月 秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝
 泉(5日)・土樋キャンパス [朝](6日) 説教者 虎川 清子先生
 多賀城(6日)・土樋キャンパス [夜](6日) 説教者 シュー・ポール先生
- 11月 チャペルニュース90号(サマーカレッジ・秋季特別伝道礼拝号)発行
 オータムカレッジ(16日)
 第9回宗教部事務研修会(19日)
- 12月 チャペルニュース91号(クリスマス特集号)発行
 泉キャンパスクリスマス(3日)
 大学クリスマス
 土樋・泉(15日)・多賀城キャンパス(16日) 説教者 大住 雄一先生

2005年

- 1月 第9回キリスト者教員研修会(8日)
 2月 礼拝オルガニスト懇談会(21日)
 礼拝司会者懇談会(21日)
 3月 大学礼拝説教集(第9号)発行
 研修会・修養会発題報告集発行

であったと言われています。八世紀の初め、当時広く行われていた恐るべき風習がありました。それは、北欧神話の知恵、詩、戦争、農業の神であるオーディンの聖なるかしの木に人間を犠牲として捧げるといふものでした。イギリ

スから渡ってきていた宣教師のボニーフェイスがこの習慣を止めさせようとして、幼児キリストへの捧げ物を捧げるようにしたのが始まりだといわれています。

近代になって歴史的に確かなことは、一六世紀の宗教改

革者M・ルターが、クリスマスにきらめく星々を示すために室内にもみの木を立てて、ローソクに火をともし飾ったと言われています。以来もみの木にりんごやバラの花、さらに金粉や砂糖で飾ったり

して、世界に広まっていきました。ごてごて飾りたてたクリスマス・ツリーよりも簡素で美しいツリーを本来飾りたいものです。

(野村 信)

訂正

チャペルニュース90号の記載を左記の通り訂正させていただきます。

- ・誤 日本フリーメソジスト 教会南仙台教会
- ・正 日本フリーメソジスト 教団南仙台教会

● 編集後記 ●

自然災害が多かった今年も過ぎようとしています。嵐と地震に襲われ大変な状況にある人々のことが気になります。エリヤという旧約の預言者について記した箇所には次のような言葉があります。―風が吹き、地震が起り、火が起った。しかしそこに神はおられなかった。ただ静かにささやく声が聞こえた―預言者は神の声を聞いたのでした。落胆し逃避的になつていた預言者を立ち上がらせたのは神の言葉でした。

(N・A)